



Cisco TelePresence Management Suite 15.0.1

ソフトウェア リリース ノート

2016 年 8 月改訂

製品に関する資料

製品のインストール、初期設定、および動作については、次のドキュメントを参照してください。

- [Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレード ガイド](#)
- [Cisco TelePresence Management Suite 管理者ガイド](#)
- [Cisco TMS 拡張機能導入ガイド](#)

解決済みおよび未解決の問題

次のリンクをクリックして、このリリースで解決済みの問題に関する最新情報をご覧ください。

https://tools.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.0.1&sb=anfr&srtBy=byRel&bt=cus tv

Cisco バグ検索ツールにログインした後、ブラウザの表示を更新する必要があります。

制限事項

機能	制限事項
サポートされるタイムゾーン	<ul style="list-style-type: none">■ Cisco TMS サーバのタイムゾーンを変更することはできません。■ DST の日付やタイム ゾーンのリージョンの変更など、国際タイムゾーンの修正は、Microsoft Windows の更新プログラムによって Cisco TMS サーバと Cisco TMS で自動的に更新されます。Cisco TelePresence TE または TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントについても同じです。これらのエンドポイントには、手動で定義されたタイム ゾーンのリストがあるため、DST 日付またはタイムゾーン リージョンの変更は反映されません。これにより、直接管理されているエンドポイントでタイムゾーンの不一致エラーが発生する可能性があります。スケジューリングは影響を受けませんが、Cisco TMS はタイムゾーン データの読み取り/書き込みに失敗する可能性があります。

機能	制限事項
TelePresence Conductor のスケジューリング	<p>TelePresence Conductor は、会議と会議の間でリソースを解放するまでに最大 30 秒待機する場合があります。そのため、参加者が会議への参加と退席を繰り返すと、連続する会議の着信や発信が拒否されたり、使用率が急上昇したりする可能性があります。バグツールキットの識別子: CSCuf34880。</p> <p>この制限は、予定されている TelePresence Conductor および Cisco TMS のリリースで対処されます。</p> <p>「TelePresence Conductor のスケジュール設定の改善」も参照してください。</p>
TelePresence Conductor のスケジューリング	Cisco TMS では、複数の TelePresence Conductor クラスタ ノードはサポートされていません。
TelePresence Conductor のスケジューリング	Cisco TMSPE によって生成されたコラボレーション会議室のスケジュールはサポートされていません。
TSP の音声と会議の内線番号	同じ PSTN 番号を使用する別のミーティングと重複している場合は、進行中のミーティングを自動的に延長することはできません。Cisco TMS では、PSTN 番号のみを考慮に入れ、オーディオブリッジの実際のミーティングを識別する DTMF 文字列は考慮されません。
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ FindMe と Multiway を使用した会議では、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ 参加者が保留になっているか、または転送された会議は、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ ブラウザの制限によって、次のブラウザで会議制御センターが起動するのを防ぎます。 <ul style="list-style-type: none"> a. Google Chrome : Google は、2015 年 9 月から Chrome (Chrome 45) の NPAPI サポートを完全に削除しました。Chrome での NPAPI サポートの詳細については、https://support.google.com/chrome/answer/6213033?hl=en のリンク先を参照してください。 b. Microsoft Edge : 会議制御センターは、ActiveX コントロールをサポートしていない Microsoft Edge ブラウザでは起動できません。 <p>会議制御センターを起動するには、Mozilla Firefox の使用を推奨します。</p> ■ 会議制御センターの参加者のスナップショットとイベント ログ データの自動更新機能は、どのバージョンの Google Chrome でも機能しません。
WebEx	<ul style="list-style-type: none"> ■ CMR Hybrid に対する高度な定期的パターンはサポートされません。[新しい会議 (New Conference)] ページから予約する場合は、Webex を含めてから、サポートされている定期的なパターンのみが表示されるように定期的なパターンを指定してください。 ■ 1 つのインスタンスが進行中に定例会議シリーズを削除すると、Cisco TMS では会議が削除されますが、WebEx では削除されません。これは、WebEx が進行中の会議に変更を許可しないためです。これには削除が含まれます。 ■ Cisco TMS ツールで [通信セキュリティ (Communication Security)] のオプション [中 - 高 (Medium-High)] または [高 (High)] を選択すると、Cisco TMS の一部またはすべての機能が失われます。 ■ 会議が WebEx で予約されている場合、後で Cisco TMS で会議の所有者を変更すると、会議の所有者の詳細は Cisco TMS でのみ反映され WebEx では反映されなくなります。さらに、Cisco TMS で会議を更新しようとすると、エラーが発生する可能性があります。
コラボレーション エッジ	Cisco TMS は現在コラボレーション エッジの背後にあるデバイスをサポートしていません。

機能	制限事項
Expressway	Cisco Expressway-C と Cisco Expressway-E は、システム タイプ TANDBERG VCS を使用して Cisco TMS に表示されます。
[システムタイプ (System Type)] フィールド	以前に TANDBERG がシステム タイプに含まれていた一部のシステムが、Cisco TMS に引き続き TANDBERG として表示されることがあります。これはシステムの API からシステム タイプを直接読み取る Cisco TMS に主に基づいています。API を介して使用できなかったシステム タイプが追加されることがあります。そのため、その名前とシステム タイプ TANDBERG が表示され続けることがあります。
下部バナー	Cisco TMS ツールで下部バナーが有効になっている場合、Internet Explorer 10 で Cisco TMS Web アプリケーションを使用して、強化されたセキュリティ設定を有効にすると、ウィンドウの下部にあるリンクとボタンが無効になります。
Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できない	Cisco TMS 15.0.1 で新しいセキュリティ モードが <i>[高 (High)]</i> に設定されている場合、Cisco TMSPE は Cisco TMS との通信に失敗します。 この制限は、Cisco TMSPE の将来のリリースで対処されます。
Cisco TMS での会議のスケジューリング	24 時間以上スケジュールされた会議と重複している定例会議は予約できないことがあります。 Bug Toolkit の ID : CSCux64873。
延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)	[延長会議モード (Extend Conference Mode)] を [自動ベスト エフォート (Automatic Best Effort)] に設定した状態で [延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)] を [無視 (Ignore)] に設定し、 [参加者に対し早期接続を許可する (Allow participants to Join Early)] を [はい (Yes)] に設定した場合、会議の参加者のうち 1 人がポイント ツー ポイント ミーティングに参加していると、予期せぬ結果が発生する可能性があります。

相互運用性

この製品の相互運用性テスト結果は、<http://www.cisco.com/go/tp-interop> に掲載されています。ここでは、他の Cisco TelePresence 製品の相互運用性テストの結果も確認できます。

15.0.1 へのアップグレード

アップグレードする前に

冗長展開

冗長 Cisco TMS の導入をご利用のお客様は、Cisco TMS15.0 にアップグレードする前に『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレード ガイド 15.0](#)』のアップグレード手順を必ずお読みください。

14.4 または 14.4.1 からのアップグレード

Cisco TMSXE または Cisco TMSXN を使用する 14.4 または 14.4.1 からアップグレードする場合は、CISCO TMS15.0.1 にアップグレードする際に、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレード ガイド 15.0](#)』[英語] で説明されているアップグレード手順に従う必要があります。

14.2 より前のバージョンからのアップグレード

バージョン 14.2 以前のバージョンの Cisco TMS からアップグレードする場合は、Cisco TMS15.0.1 にアップグレードする前に、『[Cisco TelePresence Management Suite のインストールおよびアップグレードガイド 15.0](#)』[英語] のアップグレード手順を参照する必要があります。

前提条件とソフトウェアの依存関係

互換性のあるオペレーティング システムとデータベース サーバの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Management Suite インストールおよびアップグレード ガイド](#)』を参照してください。

アップグレード手順

Cisco TMS は、Cisco TMS の新規インストールと以前の Cisco TMS バージョンのアップグレードの両方に同じインストール プログラムを使用します。

アップグレードまたはインストールの完全な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite インストールおよびアップグレード ガイド](#)』を参照してください。

Bug Search Tool の使用

バグ検索ツールには、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報があります。これらのリリース ノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、[Bug Search Tool](#) に移動します。
2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。
3. [検索 (Search)] フィールドにバグ ID を入力し、[検索 (Search)] をクリックします。
ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。
2. 表示されるバグのリストで**[フィルタ (Filter)]** ドロップダウンリストを使用し、**[キーワード (Keyword)]**、**[変更日 (Modified Date)]**、**[重大度 (Severity)]**、**[ステータス (Status)]**、**[テクノロジー (Technology)]** のいずれかでフィルタリングを行います。

バグ検索ツールのホーム ページの**[詳細検索 (Advanced Search)]** を使用して、特定のソフトウェア バージョンで検索します。

Bug Search Tool のヘルプ ページには、Bug Search Tool の使用に関する詳細情報があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用方法、サービス リクエストの送信および追加情報の収集方法については、『[What's New in Cisco Product Documentation \(Cisco 製品資料の更新情報\)](#)』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語]) を参照してください。

Cisco 製品資料の更新情報には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルがすべて表示されます。この RSS フィードを登録するか、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツを直接デスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

ドキュメント変更履歴

表 1 Cisco TMS のリリース ノートの変更点

日付 (Date)	リビジョン	説明
2016 年 8 月	02	Cisco TMS の制限でミーティングのスケジュール設定が追加されました。
2015 年 9 月	01	Cisco TMS 15.0.1 のリリース。



シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。全著作権所有。著作権©1981、カリフォルニア大学理事会。

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices/ [英語]) をご覧ください。

© 2015 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有。

シスコの商標

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)。